

# かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

## 1 これまでの経緯

### (1) かわさきパラムーブメント第1期推進ビジョン

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくため、平成28(2016)年に策定しました。

### (2) かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョン

- かわさきパラムーブメント第1期推進ビジョンの課題を踏まえ、次の内容からなる第2期推進ビジョンを平成30(2018)年に策定しました。
  - ▶「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくり」を目指し、
  - ▶「人々の意識や社会環境のバリアを取り除き、誰もが社会参加できる環境を創り出す」ことを理念とし
  - ▶未来へと遺していく「レガシー」を掲げ市民と共有しながら、そのための取組を計画的に推進

## 2 かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの総括

### (1) かわさきパラムーブメント全体に関する総括

#### ア 多様性と社会的包摂※に関するレガシーの形成に向けた取組

- 多様な主体と連携し様々な先進的な取組を推進し、先導的共生社会ホストタウンにも認定されました。
- 令和3(2021)年12月に実施の「かわさきパラムーブメントに係る意識調査(以下「市民アンケート」と言います。)」で、「生活をする上でバリア(障壁)を感じている人の割合」が29.3%などとなっています。
- 今後もより一層パラムーブメントの理念浸透を進めるとともに、様々なステークホルダーと連携しながらレガシー形成に向けた取組を進めていきます。

#### イ 川崎のブランド力に関するレガシーの形成に向けた取組

- 東京2020大会では、国内外の多くの人々が本市を訪れることを想定し、このレガシー形成にも取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業計画の見直し等を余儀なくされました。
- 今後の観光需要の回復及びその先の拡大等を見据え、市制100周年を契機とした魅力向上等に向け、引き続き庁内関係部署により推進します。

### (2) 各レガシーに関する総括

- 「9 かわさきパラムーブメントにおけるレガシー」で後述

## 3 社会的背景と課題認識

### (1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

- 令和3(2021)年夏、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって1年延期のうえ、かつ多くの競技が無観客で開催されました。
- 自国開催、過去最多のメダル獲得数(オリンピック)、パラリンピックのテレビ放送が過去最長となったことなどにより、注目度の高い大会となりました。
- 本市が大会後に実施したアンケートでは、**パラリンピック大会を観た方のうち50%以上が障害者に対する理解や意識の変化があった**と回答しました。
- 英国のホストタウンとして、各種交流の実施や事前キャンプの受入れなどを通じ、よりよい社会の実現を目指すオリンピック・パラリンピックムーブメントを自らのものとして感じる契機となりました。

このように高まった共生社会の実現に向けた  
機運を逃すことなく、より一層取組を推進

### (2) 少子高齢化・人口減少社会など人口構成の変化を見据えた対応

- 誰もが加齢による心身機能の低下により、これまで感じることもなかった新たな社会的障壁を感じる事が想定されます。
- 将来予想される人口減少と急激な高齢化などといった、人口構成の変化を踏まえる必要があります。

### (3) ダイバーシティとソーシャル・インクルージョンに関する法令等の整備

- 持続可能なまちづくりが求められる中、ダイバーシティとソーシャル・インクルージョンの考え方が極めて重要となり、国においても障害者差別解消法、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、ユニバーサルデザイン2020行動計画など、様々な法整備や計画が進んでいます。

### (4) 持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえた取組の推進

- 本市では、平成31(2019)年に「川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針」を策定しました。
- 本ビジョンも総合計画第3期実施計画と同様に、SDGsの理念や目標、国の動向等を踏まえながら取組を進めていく必要があります。

※ 社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)… 今日的な「つながり」の再構築を図り、全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うこと(「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書 平成12年厚生省)

# かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

## 4 かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの見直し

- 第2期推進ビジョンの取組期間の終了と、これまでの取組、現状及び課題を踏まえ、共生社会の実現に向けて高まってきた機運を活かし、次により第2期推進ビジョンを見直します。

### (1) 見直しの考え方

- 第2期推進ビジョンにおいて、共生社会を実現させるための目的や基本的な考え方を示した「目指すもの」と「理念」は、推進ビジョンでも踏襲します。
- 推進ビジョンは、レガシーや取組期間について見直し、共生社会の実現に向けたビジョンとして特化させます。

### (2) 見直しの内容

#### ア レガシーについて

- 「多様性と社会的包摂に関するレガシー」については、これらのレガシーが形成されることで共生社会の実現につながるため、引き続きレガシーとして位置づけ、形成に向けた取組を進めていきます。
- 「川崎のブランド力に関するレガシー」である「来訪者が「行って良かった」と思えるまち」及び「知名度・プレゼンスが高まった川崎」については、東京2020大会という好機を活かして主にインバウンド等の観点から取り組むものであったことから、**推進ビジョンにおけるレガシーとしての位置付けを解消します。**

#### イ 5つの取組の方向性について

- 第2期推進ビジョンは、第1期推進ビジョンの5つの取組の方向性（「人づくり」「スポーツ振興・健康づくり」「まちづくり」「都市の魅力向上」「先進的な課題解決モデルの発信」）を一部踏襲して取組を推進してきましたが、これは、共生社会に関するだけでなく様々な領域で幅広く、パラムーブメントの「理念」から直接関連しないものもあることから、**今回、「5つの取組の方向性」は解消します。**

#### ウ 取組期間について

- 第2期推進ビジョンでは取組期間を平成30(2018)年度から令和3(2021)年度までの4年間として、様々な取組を推進してきました。
- 第2期推進ビジョンで定めた「目指すもの」等は、共生社会の実現に向けた本市の基本理念として、市内全域に浸透し将来にわたって踏襲し続ける必要があります。
- こうしたことを踏まえ、推進ビジョンは取組期間を**令和4(2022)年度から概ね10年程度**とし、期間中は社会情勢の変化や本市の総合計画などの整合性に留意し、必要に応じて見直しを行うなど適切に対応していきます。

## 5 かわさきパラムーブメントによって目指すものと理念

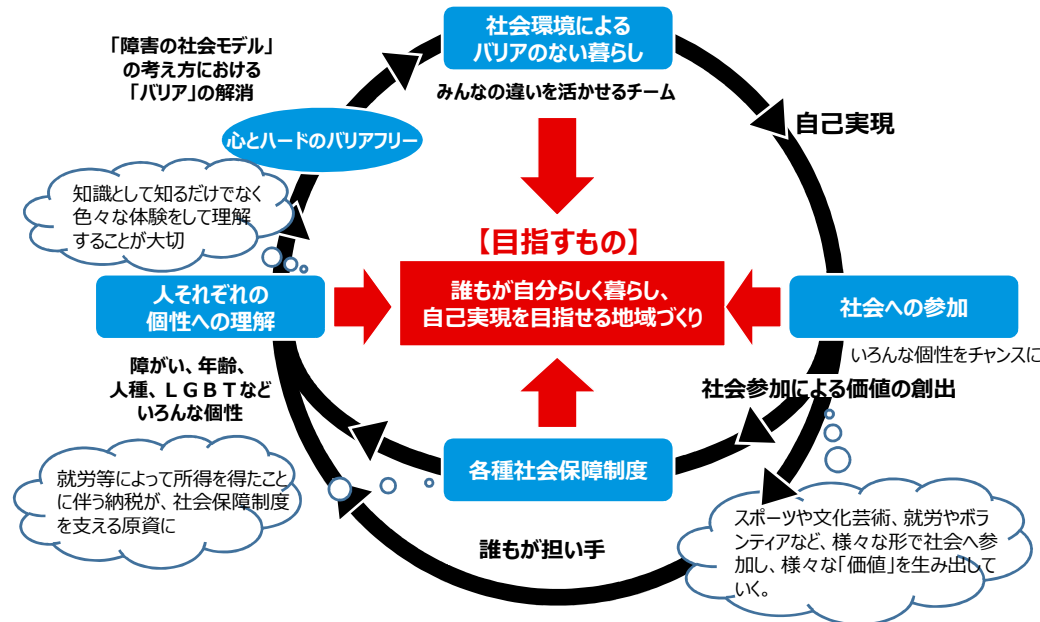
### 【目指すもの】

**誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指す地域づくり**

### 【理念】

**人々の意識や社会環境のバリアを取り除き、誰もが社会参加できる環境を創出すること**

【かわさきパラムーブメントの概念イメージ】  
(すべての人が対象)



### 【目指すものの実現に向けた考え方】

- マイリティとされている人々のことを正しく理解すること
- 「障害の社会モデル」の考え方におけるバリアの解消により、社会環境によるバリアのない暮らしを実現すること
- バリアのない暮らしができたことにより、スポーツや文化芸術、趣味の活動、就労などにより社会へ参加し、自己実現を図ること
- 社会参加により、すべての人がチームの一員として様々な価値を創出するとともに、その価値が真に支援が必要な人に還元されていくこと

# かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

## 6 かわさきパラムーブメント推進ビジョンについて

### (1)位置付け

- 推進ビジョンは、「川崎市総合計画」と整合性を図り、共生社会の実現に向けた施策を推進する上で必要な基本的な考え方を明確化したものとして、レガシー形成に直接資するすべての事業と整合を図り、連携しながら進めます。
- レガシー形成に直接関連しない事業についても、パラムーブメントの視点を取り込み、それぞれの取組を行っていきます。

### (2)性質

- かわさきパラムーブメントの推進には、多様な主体との協働・連携で取り組むものや市民自らが取り組むものがあることから、推進ビジョンには、社会計画としての要素と本市として取り組むことを明らかにする行政計画としての要素があります。
- かわさきパラムーブメントの性質を踏まえ、大きなうねりとしてムーブメントを広く起こしていくために、引き続きかわさきパラムーブメントの考え方などの浸透を図る必要があります。

### (3)構成

- 「目指すもの」の実現に向け、「理念」に基づき「多様性と社会的包摂に関するレガシー」の形成に向けた取組を推進します。

### (4)取組期間

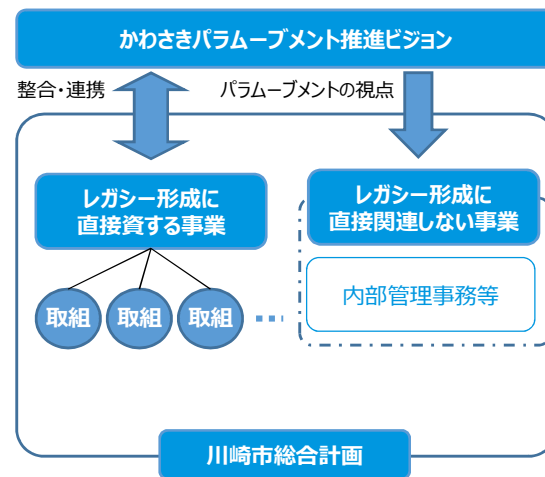
- 概ね10年程度とします。

### (5)成果指標

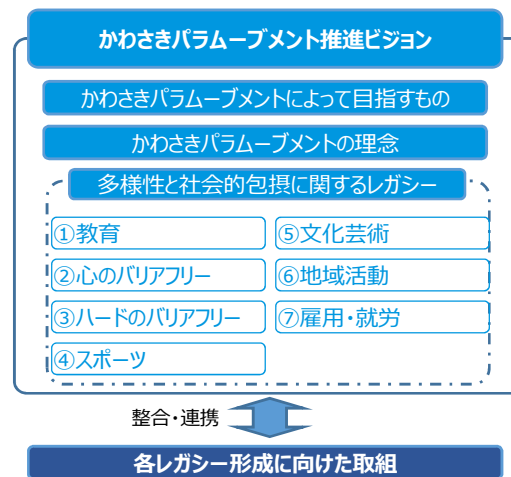
#### 「生活をする上でバリア（障壁）を感じている人の割合」

- 理念に基づき、共生社会を実現するためには、バリア（障壁）を取り除いていく必要があります。
- 本指標では、バリアを実感している人の割合の推移をみることで、取組の成果を測ることができ、今後は、この割合の減少を目指し、各レガシーの形成に向けた取組を推進します。

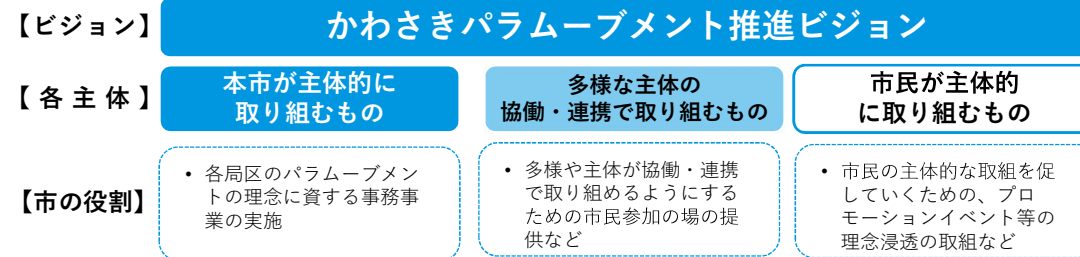
#### <位置付けイメージ>



#### <構成イメージ>



#### <推進ビジョン性質イメージ>



#### 【数値目標】



# かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

## 7 レガシーとその考え方

### (1) かわさきパラムーブメントのレガシー

- 目指すものである「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指す地域づくり」に向けて、かわさきパラムーブメントの様々な取組により未来へ遺していくものをレガシーとしています。
- 理想の状態として、レガシーの形成された状態を明示し、その姿の実現に向け、様々な主体が取り組んでいきます。

### (2) レガシー形成に向けた考え方

- 当面の人口増加に対応しつつ、やがて訪れる人口減少と急激な高齢化などといった人口構成の変化に対応し、誰もが自分らしく暮らし自己実現を目指す共生社会の実現に向けた持続可能なまちづくりを行う必要があります。
- そのため、この推進ビジョンでは、第2期推進ビジョンで定めたレガシーのうちかわさきパラムーブメントで目指す共生社会の実現に不可欠な「多様性と社会的包摂に関するレガシー」の7つを改めてレガシーとします。

## 8 レガシー形成に向けた取組

### (1) 理念浸透について

- 一層の理念浸透を進めていくため、社会的マイノリティについて関心や問題意識を持っている方々のみならず、多様な方々に対してもアプローチできる取組を進めていきます。
- 庁内においても「合理的配慮の提供に関する基本方針」に基づく取組を通じて、直接レガシーの形成には関連しない事務事業であってもパラムーブメントの視点を持ちながら取り組むことを目指していきます。

### (2) レガシー形成について

- 各レガシーに関連する部署で構成する「レガシー検討プロジェクト会議」を設置し、レガシー形成に向けた課題やその解決策等について検討するなど、各所管の主体的な取組を推進するとともに、その進捗管理をしています。

### (3) 目指すものの実現に向けた検証について

- パラムーブメントの理念浸透、目指すものの実現及びレガシーの形成に向け、定期的に現状を把握するとともに、社会状況の変化等を捉え、今後の取組の方向性等について定期的に検証を行い、必要な見直しに取り組めます。

## 9 かわさきパラムーブメントにおけるレガシー

別紙のとおり

## 10 かわさきパラムーブメントに係る意識調査

### (1) 調査概要

かわさきパラムーブメント全体及び「多様性と社会的包摂に関するレガシー」としている7つのレガシーの現状を把握するためにかわさきパラムーブメントに係る意識調査をアンケートにより実施しました。

### (2) 実施期間

令和3(2021)年12月10日（金）～12月24日（金）

### (3) 対象者

- ア 市民  
市民のうちインターネットアンケートサイトに登録している1,000名を対象
- イ 障害当事者  
障害者手帳等を所持している方から無作為に抽出した身体障害者手帳(120名)、療育手帳(36名)、精神障害者保健福祉手帳(44名)の計200名程度を対象
- ウ 市立中学校の2年生（レガシー1のみ）  
第2期推進ビジョンの期間中に小学校及び中学校それぞれ2年間の教育を受けている市立中学校2年生（9,900名程度）を対象

### (4) アンケートの回収状況

- ア 市民(インターネットアンケート)  
回答：1,000名(うち障害手帳所持者 44名)(回収率：100%)  
※ 市内在住のアンケートサイト登録者数約34,500人を対象として実施し、統計として必要十分な1,000件の回答があった時点で回答を締め切り
- イ 障害当事者  
回答：41名(回収率：20.5%)
- ウ 市立中学校の2年生  
回答：5,302名(回収率：53.5%)



# かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

## 9 かわさきパラムーブメントにおけるレガシー

※かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの総括と本ビジョンのレガシーを併せて表記しています。

### (1) 多様性と社会的包摂に関するレガシー

| レガシー                              | レガシーが形成された状態  | これまでの主な取組   | 現状と課題   | 今後の取組の方向性   |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ①多様性を尊重する社会をつくる<br>子どもを育むまち       | <ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育を終えた時点で、すべての子どもたちが、人は平等であり、かつ、あらゆる機会の提供は公平であるべきことを理解しており、誰もが各々の個性を互いに尊重し合っている。</li> <li>義務教育を終えた時点で、すべての子どもたちが、共生社会の担い手としてお互いに助け合い支え合うことの大切さを理解し、実践的な態度が身についている。</li> <li>大人たちが、自他の個性を尊重し助け合うことを実践し、子どもたちの模範となっている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校における多様性を尊重する教育活動の実施</li> <li>多様性を尊重する社会性のスキルを身に付ける「かわさき共生＊共生プログラム」の実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場になって、物事を考え行動することのできる中学生の割合:47.0%</li> <li>心のバリアフリーが子どもたちに浸透していると思った人の割合:28.4%</li> <li>今後も、相手の立場になって、物事を考え行動することのできる子どもたちを育成していく取組が求められます。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「子どもの権利学習」や「多文化共生教育」、「道徳教育」について学ぶことで、マイノリティもマジョリティも含め、一人ひとりが互いに尊重し合うことを理解する機会を設けており、今後も改善を重ねながら「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育を推進します。</li> <li>一人ひとりの教育的ニーズへの対応を図るため、「共生＊共生推進事業」や「特別支援教育推進事業」を通じて、子どもたちが平等や公平、互いの個性への尊重について理解し実践する態度を身に付ける機会を提供しており、継続した取組を推進します。</li> </ul> |
| ②心理的バリアが<br>解消されたまち<br>～心のバリアフリー～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人が、自他の個性を尊重し、相互にコミュニケーションをとることができる。</li> <li>すべての人が、自らの心のバリアを取り除く実践的な行動をとっている。</li> <li>社会的マイノリティの当事者が、自分たちも社会を構成するかけがえのない存在であることを確信し、社会生活上のバリアを取り除くうえで必要なことを他者に伝えられている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>職員を対象としたバリアフリー研修の開催</li> <li>商店舗等におけるかわさきパラムーブメント実践事業の実施</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分とは違う他人を思いやることのできる人の割合:76.5%</li> <li>心のバリアフリーを体現することのできる人の割合:75.8%</li> <li>相手の立場になって物事を考え実際に行動できる人を増やすとともに、障害の社会モデルの考え方を普及していく必要があります。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>心のバリアフリーは、対人関係が生ずる全ての事務事業で体現するべきものであるため、全職員が意識して取り組みます。</li> <li>心のバリアフリーを体現することが難しい理由として「どう対応してよかわからなかった」という回答が最も多かったことから、障害の社会モデルや社会的マイノリティへの特性等についての理解を促進する市民向けの取組を進めます。</li> </ul>   |

## かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

| レガシー                                    | レガシーが形成された状態  | これまでの主な取組  | 現状と課題  | 今後の取組の方向性   |
|---|---|--|--|---|
| ③ 社会的バリアが<br>解消されたまち<br>～ユニバーサル<br>なまち～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人が、自らの意思で行きたい所に行け、行った先で自由に行動ができる。</li> <li>すべての人が、言語、心身の個性の違いを意識することなく、サービスを受受できている。</li> <li>すべての人が、あらゆる情報に公平にアクセスできる。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー基本構想及びバリアフリー推進構想に基づき、公共交通機関や道路などのバリアフリー化を推進</li> <li>市有施設(市民利用施設、庁舎等)のバリアフリー対応の推進</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>ハードのバリアがあると感じている人の割合:38.2%</li> <li>社会的マイノリティにとって、ハードのバリアがあると感じている人の割合:43.2%</li> <li>ハードのバリア解消は短期的な達成は困難ですが、ハードのバリアを感じる人の減速に向けて、引き続き計画的にバリアフリー化を進める必要があります。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>市有施設のバリアフリー対応については、バリアフリー対応の優先順位の考え方に基づき対応を図っていくこととし、当面ハードの対応ができないものについては、合理的配慮の提供に関する基本方針に基づくソフト面で配慮した対応を図ります。</li> <li>各地区のバリアフリー基本構想・推進構想に基づくハードのバリアフリー化を推進するとともに、心のバリアフリーに関する取組と連携することで、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進します。</li> </ul> |
| ④ 誰もがスポーツ・<br>運動に親しんで<br>いるまち           | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人にとって、身近な場所でスポーツをするための環境が整っている。</li> <li>すべての人にとって、公平にスポーツを観戦できる環境が整っている。</li> <li>すべての人が、日常的にスポーツ・運動に親しみ、楽しみ、体力の維持向上や健やかな心身を育んでいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>パラスポーツやってみるキャラバンの実施</li> <li>次世代アスリートの育成・強化の実施</li> <li>発達障害児を対象としたサッカー観戦&amp;親子サッカー体験の開催</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツをする、みる、支える上でバリアを感じている人の割合:41.1%</li> <li>社会的マイノリティがスポーツをする、みる、支える際にバリアがあると感じている人の割合:73.4%</li> <li>障害のある方がよりスポーツに関われるよう、様々なバリアの解消を図るほか、パラスポーツの認知度や観戦経験を高めるとともに、インクルーシブにスポーツを楽しむことができる環境を創出していくことが必要です。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>パラスポーツの認知度を高め、より一層推進するための取組を進めるとともに、障害のあるなしに関わらず一緒にスポーツを楽しめるインクルーシブな状態を目指す取組を進めます。</li> <li>障害者のスポーツ活動への参加状況を把握するとともに、参加状況が思わしくない場合はその原因となっているバリアを探り、解消に向けた取組を進めます。</li> </ul>   |
| ⑤ 誰もが文化芸術<br>に親しんでいるま<br>ち              | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人が、文化芸術活動に携わることができる環境が整っている。</li> <li>すべての人が、文化芸術に親しみ、楽しめる環境が整っている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Colors かわさき展など障害者の作品展の開催</li> <li>パラアート推進公募型委託事業の実施</li> <li>ブリティッシュ・カウンシルとの連携によるインクルーシブな文化芸術活動の実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術に携わる、鑑賞する際にバリアを感じている人の割合:33.0%</li> <li>社会的マイノリティが文化芸術に携わる、鑑賞する際にバリアがあると感じている人の割合:59.3%</li> <li>障害のある方がより文化芸術活動に関われるよう、様々なバリアの解消を図っていくことが必要です。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術活動が障害者の社会参加を促進する有力なツールの一つであることを認識し、障害のあるなしに関わらずインクルーシブな状態としていくことを目指し、障害者自らが文化芸術活動を行うことと、鑑賞することの2つの面での取組を進めます。</li> <li>障害者の文化芸術関連のイベントへの参加状況を把握するとともに、参加状況が思わしくない場合はその原因となっているバリアを探り、解消に向けた取組を進めます。</li> </ul>             |

## かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

| レガシー                          | レガシーが形成された状態  | これまでの主な取組  | 現状と課題  | 今後の取組の方向性  |
|-------------------------------|---|--|--|--|
| <p>⑥ 多様な主体が地域づくりに貢献しているまち</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人が、自らが住まうまちの将来の姿を共有して、自らの能力を活かして活動を実践し、コミュニティの一員となっている。</li> <li>自らが住まうまちの地縁型の活動やテーマ型の活動にかかわらず、参加できる環境が整っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>障害等のあるなしに関わらず自分がやってみたいと思う企画を地域で実現していくことを目指す市民参加による「かつてにおもてなし大作戦」の実施</li> <li>教育文化会館・市民館による障害者社会参加学習活動の実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動に社会的マイノリティが参加している割合:30.7%</li> <li>今後、より多くの社会的マイノリティが参加する地域活動を増やしていく取組が必要です。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>多彩な経験を持った高齢者や未来を担う若い世代の社会貢献に対する関心が高まっているとともに、地域で積極的に活動する団体や社会貢献活動に意欲的な企業など、公共領域の新たな担い手が増えていることから、地域課題や社会的課題の効果的な解決に向けて、地域人材の発掘、育成、支援などをさらに進めます。</li> <li>市民をはじめとした多様な主体と協働・連携した市政運営や地域づくりを進めることも求められており、「かつてにおもてなし大作戦」で培われた市民のゆるやかなつながりも活かしながら、社会的マイノリティも例外なく担い手の一人として活躍できる取組を進めます。</li> <li>社会的マイノリティが地域活動に参加しやすくなるよう、行政として地域に対して意識啓発を図るとともに具体的な取組を促していきます。</li> </ul> |
| <p>⑦ 誰もが職業等を通じた社会参加できる環境</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人が、社会参加しようとする意欲を持っている。</li> <li>すべての人がお互いの個性を理解し、一緒になって仕事や、趣味、学習活動等を行っている。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業、就労支援機関、行政が一体となって行う障害者雇用促進ネットワーク会議の開催</li> <li>企業応援センターかわさき事業の実施</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>就労、趣味、自己研鑽の場に社会的マイノリティが参加している割合:31.8%</li> <li>本市の雇用支援も進んでいない状況にあり、今後、法定雇用率の達成企業を増やしていくとともに、企業が障害者を雇用するにあたっては、ノウハウや特性・能力への理解、業務の切り分け等に課題があり、その解消に向けた取組が必要です。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校における社会的自立に向けた職業教育の充実を図るため、社会的な自立に向けて今日求められる人材を育成するための職業教育や、新たな実習先・就労先の開拓、卒業後の定着支援に向けた取組を進めます。</li> <li>企業等において障害者雇用・就労を推進するため、就労意欲の喚起から就労支援、定着支援のスムーズな取組、特別支援学校の生徒へ就業体験、障害者向けのテレワークの推進などの取組を進めます。</li> <li>福祉的就労における工賃向上の推進や公契約・指定管理者制度等における障害者優先調達等にも取り組んでいきます。</li> </ul>   |

## かわさきパラムーブメント推進ビジョン（概要版）

### (2)川崎のブランド力に関するレガシー ※第2期推進ビジョンを持って解消

| レガシー                         | レガシーが形成された状態  | これまでの主な取組  | 課題  | 今後の方向性  |
|------------------------------|---|--|---|---|
| レガシー⑧<br>来訪者が「行って良かった」と思えるまち | <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎を目的地として多くの人々が訪れている。</li> <li>川崎への来訪者が、その後、川崎の魅力を発信している。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>多言語対応による情報発信や施設案内の実施</li> <li>ナイトタイムエコノミーの実施</li> <li>他都市と連携した観光振興策の推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の観光需要の回復及びその先の拡大を見据え、多くの人々を魅了するための魅力ある観光資源の創出や活用に向けて取り組むとともに、観光情報の積極的な発信等を進めていく必要があります。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>市制 100 周年等を契機とした、本市の更なる魅力向上に向けた観光振興施策を推進します。</li> </ul>                    |
| レガシー⑨<br>知名度・プレゼンスが高まった川崎    | <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎が、様々な分野におけるテクノロジー開発などで世界の最先端にあることが国内外で認知されている。</li> <li>川崎の魅力や特長が国内外で認知されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者と連携した都市イメージ向上やシビックプライド醸成に関する取組の推進</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>市制 100 周年を迎えることを契機に、本市の都市イメージの向上及びシビックプライドの醸成を図るため、ソーシャルメディアをはじめとしたさまざまなメディアやブランドメッセージを活用して、社会変容に対応しながら市の多彩な魅力をより効果的に発信していく必要があります。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市制 100 周年を契機とした、更なる都市イメージの向上とシビックプライドの醸成を図るためのシティプロモーションを推進します。</li> </ul> |